

2024.3月
発行

No.
52

まひかの保育



発行者/愛媛県保育協議会
会長/合田 史宣
作成者/総務広報部会
編集責任者/宇津見 亮子

発行所/愛媛県保育協議会
松山市持田町三丁目8番15号
愛媛県社会福祉協議会内



楽しいこといっぱい!



いい湯だな~

松山市
公立保育



わくわく♪



「10の姿」を考える

愛媛県保育協議会 会長 合田 史宣



令和6年元旦に襲った能登半島を震源とする地震で被災に遭われた皆さんに心から一日も早く日常に戻れることを、そして亡くなられた方には心からご冥福をお祈りいたします。保育協議会としましても援助の手立てを進めて参ります。

さて、「10の姿」と言うのは当然、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のことです。でも「姿」と言うのは実に捉えどころのないものなのです。子どもたちの「姿」は虹のように遠くに逃げていきます。なぜ逃げていくのかというと、子どもの「姿」は、私たち保育者の観察の中に現れてくるからです。観察された「姿」が本当の「姿」である確証はどこにあるのか分かりません。

私たちにはよく育った「姿」に見えている子どもが、本当に育っているのかを言い切ることができませんか？

子どもと1つのはいっしょに一生懸命働きかけるわけではありませんが、時にはさぼったり遊んだりするのですから、そうした子ども「姿」の中からどこを切り抜いて「姿」を構成するのは保育者の腕にかかっているようにも見えます。しかし、子どもだっていつも本心を出しているとは限りません。実に難しいのです。

子どもの本来の「姿」を見るのはどうすれば良いのでしょうか。もう皆さんお気づきのことだと思いますが、「子ども」に寄り添うことが第一になります。子どもの内心を知らない子ども「姿」は見えてきません。子どもの心を知ると言うのは、子どもの内側を知る子どもとの内なる良心を知ると言うことです。「10の姿」を記述するといふことはこんなに複雑な作業なのです。

子どもの育ちを保障するといふのは、施設に入ってきた子どもの育ちへの寄り添いが大事になるので入園した頃からの記録が大切になります。それが年長児になった子どもたちに引き継がれ、確かな「姿」が見えてくるのだらうと思えます。きっと「姿」を見抜くのは施設全体の仕事になるでしょう。

とすれば、子どもの「姿」を見抜くためには、保育者みんなで集団の話し合いのできる場が必要になります。子どもたちの話を話し合える場が忙しき中でなかなか取ることが出来なくなっています。子どもの「姿」を明らかにするためには保育者の心の余裕が必要だと思えます。

事例発表会 11月27日(月) 愛媛県総合社会福祉会館

①「新たな時代の保育実践」

「すべての子どもにむけて」

発表園○若宮保育園(新居浜市)
○小百合保育園(松山市)

宇和島市 高光保育園 兵頭典子

「コロナ」によって、日々の保育を変化せざるをえなかった保育士や子どもたちの、課題が浮かび上がってきた。という事例を聞いて、うなずきながら聞いていたのは私だけではないかと思っています。

「友だちのかかわり方」「イメージをする力」に乏しく、「体力低下」「若い保育士の経験不足など、あらゆる面で」「つながりが希薄になり」、「主体性」が育ちにくくなった。とあり、「主体性がある」ことの重要性を感じました。そしてそれは、人のかかわりを通して学んでいく、数値では測ることのできない人間の力「非認知能力」と大きく関係しているという事。「忍耐力・社会性・主体性・対処能力・創造性等」などの「人間の力」は、自分の存在を認め、自分は自分でいいと思える心の状態「自己肯定感」が基盤にあつてこそ育つものだ、とありました。

「ここで、保育士の自己肯定感は何だろうか。」「自分の存在を認める」とある。それは「短所も長所も受け入れて認める。」ということだろう。自分の短所を受け入れ、上手く付き合っていく。それが出来る。他の人の短所を受け入れる言葉が出てくるのではないだろうか。それが、保育士同士が互いに支え合い、高めあっていく協働的な関係「同僚性」に繋がっていく。良い関係の保育者集団となっていくのではないか。そうすると子どもたちの自己肯定感を高められる保育を展開していくことが出来るのではないかと思います。

自己肯定感が基盤にあり、いろいろな体験、失敗や成功を繰り返す経験が出来る保育、職場であることが、目に見えない子どもたちの心が豊かに育まれ「非認知能力」が身についていく、と「いいこと」ではないでしょうか。

「新たな時代の保育実践」とあるが、多様な子どもたちの姿

や環境は、変わっていても、子どもを中心に保育をしていく姿勢は変わらない。「様々な立場や役割を持った職員がチームの「員」とあるという意識をもち、相手を認め受け止め協働できるチームになっていくこと」の言葉に、新時代の保育実践の基礎があると感じました。

②「配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて」

支援に向けて

発表園○岡田保育園(松前町)
○朝美保育園(松山市)

宇和島市 二間認定こども園 井上美穂

発表されたどちらの園のケースも、決して他人事ではなく、どの園でもあり得る課題であると感じました。

園生活の中で配慮を必要とする子どもに対し、その子にあった適切な対応・保育ができていくか、自問自答の日々を過ごしている保育士は少なくないのではないのでしょうか。かくいう私も同じように自問自答を繰り返しています。ただ、発表でもあつたように、園全体で共有すること、専門的な知識を身につけることはすぐに取り組めることのひとつだと思います。全職員が同じように適切な対応ができること、そして、高い専門スキルや知識を研修等を通して学ぶことは、保育の質の向上にも繋がるものだと思います。

また、適切な対応・保育に欠かせないのが保護者の協力、そして保護者支援です。保護者支援の第一歩は信頼関係作りからと言われています。どちらの園も、保護者の思いを受け入れ、共感し、寄り添うことで、その子どもにあつた関わりを見出し、子どもが園で安心して過ごせるようになったのだと思います。

昨今インクルーシブ保育の大切さを学ぶ機会が増えましたが、どれか一つが欠けても成り立たないものだと思います。皆が同じ方向に向かって一丸となつてということとは、簡単ではありません。しかし、障害の有無に関わらず、どの子にとつても安心できる環境を整えらわねば

う、今後も保育の専門家として、学びを深めていかなければならないと感じています。

③「保育者の資質向上を図り、保育現場の魅力を発信する」

発表園○常盤保育所(今治市)

宇和島市 認定こども園元気の泉 谷本公美

日々の保育を行う中で、保育の資質向上やスキルアップへつなげるためには、どうしたら良いか、今回の研修を通して、色々なヒントや参考となる取り組みを知ることが出来ました。特に話の中で、「コロナ禍で、以前よりも職員同士の交流が減ったことや、お互い学び合う機会よりもスマートフォンでの検索が主流になったこと、その為、人間関係が希薄になってきていると感じる」ということが印象に残りました。私自身も他の職員や先輩保育士から教えてもらうよりも先に、ネットの情報に頼り気味になってしまっているのではないかと、そこで改めて考えさせられました。

昼寝時間や休憩・職員会などちょっとした時間を活用し、興味のあることなど、職員同士で情報を持ちより話すことは、保育士の負担にならずに続けられるモチベーションとして大事であると感じました。日々、保育実践の中で、子どもの育ちや意見交換・情報のやり取りを行うことは、新しいアイデアや面白さを発見する機会となり、保育者自身が成長していく上で大切にしていくことであると思いました。

お互いの保育について話していくことは、お互いの学びとなり共に成長し合える良い 機会となると考えます。今後も研修で学んだことを活かし、日々の保育の中で、自分自身のスキルアップを少しずつでも図り、気軽に取り組める方法を実践できるようにしていきたいです。また、共に学び合える関係、つくりを心がけながらよりよい保育・園生活について探求し続けたいと思います。

④ 地域の子育て家庭への支援の充実に向けて

発表園 ○朝日保育園(新居浜市)

○久万こども園(久万高原町)

今治市 小西保育園 馬越 百代

「地域の子育て家庭への支援の充実に向けて」というテーマで、朝日保育園地域子育て支援センターと地域子育て支援センターHappy houseさんの事例を聞かせて頂きました。

少子化で近所に子どもがいらない、また核家族が増えて子どもへの関わり方がわからないなどの現状があります。子育てをしている保護者の方は、我が子を愛おしいと思い、成長を喜びながらも、子育ての不安や疑問を抱えながら、日々過ごしているという現状を聞かせていただきました。地域子育て支援センターの活動は、保育園に入園前の子どもとその保護者の方にとって、とても大切な役割を果たされています。保護者の方、保育士、地域の方などがみんなで協力しあって、その真ん中にいる子どもたちを見守り、育てていくことで、みんながhappyに過ごすことができます。そして人との関係が希薄になっている今、子育てに悩んでいる保護者への支援なども専門機関との連携が必要になってきています。

私が保育園で関わっている保護者の方も同じだなと思います。母親になって、子どもと一緒に初めてのことを経験し、共に成長しているお母さんたち……子どもが1歳なら、お母さん1歳です。

発表を聞かせてくださった支援センターの先生のように、相談できる人、一緒に悩んでくれる人、適切なアドバイスをしてくれる人がいるって、とても心強いことだと思います。私たち保育士の役割も同じです。保護者の方があるように、何をすべきかを、この発表でたくさん教えていただきました。

⑤ 子どものより良い育ちにむけた

関係機関とのネットワーク

発表園 ○小林保育園(四国中央市)

○大洲こども園(大洲市)

今治市 菊間保育所 濱川 麻由子

事例発表会に参加し、現在の関係機関との連携の在り方や、今後の課題について考えるよい機会となりました。コロナ禍により、この春まで職場や家庭などで人と人の繋がりが減り、地域との連携が希薄になっていました。自園でも毎年の職員の変動もあり、コロナ禍以前との関係機関との繋がりを詳しく知る者が少ない状況でした。その為に、手探りで進めることもしばしばあり、どのように取り組んでいけばよいのか悩みの一つでもありました。この事例発表から学んだことは、保護者参観や行事を行うことにより、コロナ禍で希薄となっていた保護者同士の繋がりがづくりの大切さや必要性です。保護者が子育ての喜びや悩みを共有できる場所づくりをこれからも担っていきたいと思いました。また、子ども一人の育ちを保障していく為には職員間の連携は元より、子ども達を保育所と保護者だけが育てるのではなく、多くの人と関わることで成長を促したり守ったりする必要があると思いました。

最後に、私は日頃、子ども達の笑顔から多くの幸せを貰っています。すべての子ども達が『幸せ』を実感できる未来、づくりを様々な機関と手を取り合って進めていきたいと思っています。



⑥ 家庭や地域との連携による食育の推進

発表園 ○保育所ぶどうの樹(松山市)

○双岩保育所(八幡浜市)

今治市 樋口保育所 芝 光恵

研究発表をされた保育所ぶどうの樹と双岩保育所ともに、日々の子どもの姿や保護者へのアンケートの内容から課題を探り、保育所内で取り組んでいくことを話し合い、地域性を生かし様々な方々と交流をしながら実践をさせていただきました。

保育所ぶどうの樹では、朝食の欠食児の姿から、自由参加のもと「みんなで朝ごはん」としておにぎりを食べるようにした結果、子どもたちの気になる姿が減ったそうです。この活動を通して朝ごはんを食べる事の「さま」を子どもも保護者も知ったことが成果となり、今では「おにぎりデー」を実践されているとのことでした。双岩保育所では、豊かな自然環境のもと、保育所が地域・家庭・行政を繋げるコーディネーター的役割をされ、関係各所の強みと役割を生かし合いながら様々な実践をされていました。「食育でつながった縁を大切に、子どもたちの笑顔を生み出す食事を目指し、工夫を重ねていきたい」という言葉がとても印象的でした。

それぞれの保育所とも「強み」を生かした活動をされ、保育所内の活動にとどまらず保護者への働きかけや相互理解、地域との連携を深められており、私自身食育を考え直すうえで大変参考になりました。朝食の取り方や食のこ食化など気になることも多いのですが、自園の強みを再度見直し、家庭や地域との連携を深めながらこれからも食育に取り組んでいきたいと思っています。



第68回 愛媛県保育事業研修大会 9月20日(水)愛媛県県民文化会館

○基調報告「こども家庭庁をはじめとする保育施策の動向」

愛媛県保育協議会 会長 合田 史宣

○記念講演「家族・地域と共に育む子育ての営み」

恵泉女子学園大学 学長 大日向 雅美氏

○パフォーマンス

「ステーションミュージックショー&子どもと楽しむミュージックワークショップ」

マジシャン 黒川 遼氏

第68回 愛媛県保育事業研修大会を受講して

喜多郡 内子保育園 山竹 隼平

「家族・地域と共に育む子育ての営み」を受講して、子育てにおいて、地域とのかかわりの大切さや、「自分は愛されている」と子どもが実感できることが大事であると改めて気付かされました。また、親の愛情だけでなく、地域の人や園の先生たちなど、色んな人からの愛情も大切であり、みんなで助け合いながら子育てをしていくことが必要ということとが分かりました。こどももまんなか社会に向けた政策に取り組む中で、保護者の方の不安や悩みなどを聞き取り、寄り添っていくなどの支援が大切であることを再確認し、日々の中でも送迎時などでその日の様子を伝えるだけでなく、保護者の気持ちに寄り添い、少しでも力になれるように努めたいと感じました。

「ステーションミュージックショー&子どもと楽しむミュージックワークショップ」の講演を見させていただき、ミュージックの楽しさを改めて感じる事ができました。黒川遼氏がマジシャンを目指された理由に、「子どもの頃にミュージックを見た」ことが一つのきっかけであると言われており、やはり子どもの中に様々な経験や体験をすることが大事だと思いました。子どもの前でミュージックをするときは、始まりの現象が大事であり、また、見たままのミュージックをするのではなく、自分の個性を出したり、そのクラスや子どもたちに合わせたものにしたりの方がいいと言われており実践に活かしていきたいと思いました。マジックに限らず、子どもたちの様子を見ながら遊びを広げていく保育を、これからもしていきたいと思っています。

愛媛県教育・保育施設長研修会 12月14日(木)愛媛県県民文化会館

○講義Ⅰ「今こそ安全・安心を再確認！犯罪から園と子どもを守る」

NPO法人体験型安全教育支援機構 代表・理事長 清水 奈穂氏

○講義Ⅱ「教育に科学的根拠を」

慶応義塾大学総合政策学部 教授 中室 牧子氏

愛媛県教育・保育施設長研修会を受講して

新居浜市 新居浜保育園 元根 広美

今回の研修は、子どもたちの命や成長を守るために大切なことを、幅広く学ぶことができました。

「今こそ安全・安心を再確認！犯罪から園と子どもを守る」を受講し、防犯に対する職員のスキルや犯罪者の行動分析、演習や目的別のチェックリストから、様々な気づきがありました。特に印象に残ったことは、もし子どもたちが危険な犯罪などに遭遇しても無事に逃れる基礎的な体力、その危険を乗り越える知恵・知識力やコミュニケーション力を身につけていく、大人になるために必要な力「安全教育」を日々の保育に取り入れていく重要性です。「ハサミとカミはお友だち」という標語を初めて聞き、入学後に1人で安全に通学できるように、就学前から少しずつ取り組めたら良いと実感しました。また、「安心」「信頼する人がすぐ側にいる」ことは、人間関係の基本を体得し、安全教育の始まりになるので、子どもたちに「あなたが大事」と愛情豊かに関わっていきたいと思います。

教育を経済学の理論や手法を用いて分析し、エビデンスに基づき、「教育に科学的根拠を」の講義では、ヘックマン教授によるペリー幼稚園プログラムの調査結果などからわかる教育効果が興味深かったです。そして、評価は「終わり」ではなく「始まり」という言葉が心に残っています。非認知能力は認知能力を向上させても、その逆は観察されていないことや幼児教育の効果が「プラスでもマイナスでも」長年に及んで持続することがわかり、保育所の「質」や幼児教育の大切さを改めて感じました。

今回学んだことを活かしながら、施設長として視野を広げ、自分自身の成長が周りの成長につながることを念頭に置いて、努力していきたいと思っています。



令和5年度保育実態調査報告書「保育のICT化の状況調査」

本会調査研究部会では、会員相互の情報共有をはかることを目的として、毎年、保育所の実態調査を実施しています。

近年、保育士不足の問題もあり、保育士が働きやすい環境づくりが求められています。今年度は、職員の事務負担の軽減だけでなく、保育の質の向上にも関わる業務が、コロナ禍においてICT化がどの程度進み、どのような活用をされているのかを調査を行いました。

I 実態調査概要

- 【調査対象】 愛媛県保育協議会会員 274施設
- 【調査期間】 令和5年12月20日(水)～令和6年1月10日(水)
- 【調査方法】 本会ホームページに設置した専用フォームからオンラインで回答。
- 【回答状況】 回答数227施設(82.8%)

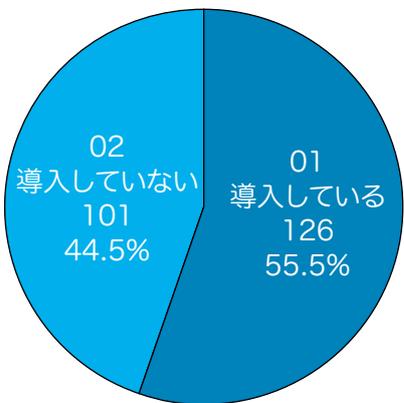
II 回答者の基本情報

設置主体		地域		児童定員	
公立	130	東予	93	50名以下	60
公設民営	16	中予	60	51名～100名以下	93
私立	81	南予	74	101名～150名以下	59
				151名以上	15

III 調査結果と概要

(1) 保育管理システムの導入について

問1 保育管理システムを導入している施設

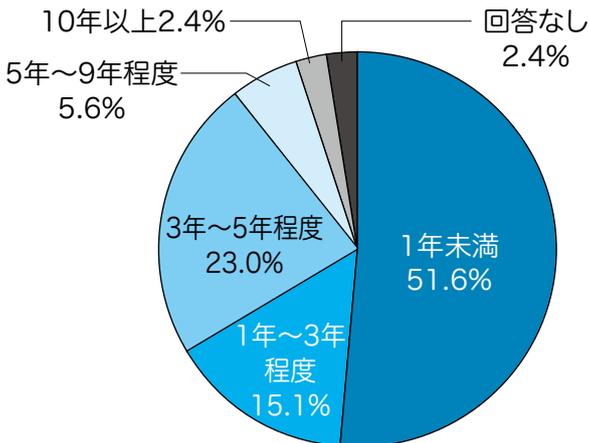


・保育管理システムを導入している施設が126施設(55.5%)、導入していない施設が101施設(44.5%)と導入している施設が半数を超えており、保育のICT化が進んできていることが推察できる。

・公立・公設民営施設における導入施設は55.5%、私立園における導入施設は55.6%、となっており、設置主体における導入比率に差は見られなかった。

(現在、保育管理システムを導入している施設のみ回答)

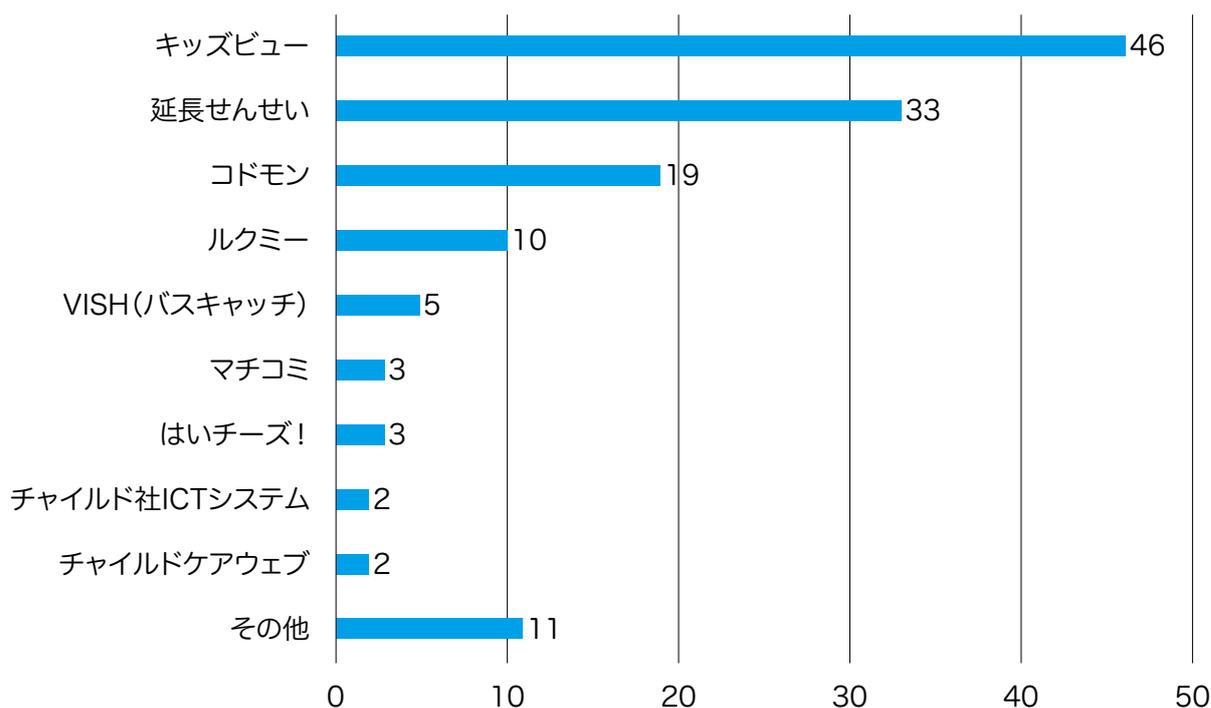
問2 保育管理システムを導入してから経過した期間(n=126)



・経過期間は、1年未満が51.6%と最も多く、1～3年程度が15.1%、3年～5年程度が23%、5年以上が8%となっている。

・3年～5年前から増え始め、ここ1年で一気にICT化が進んだと考えられる。

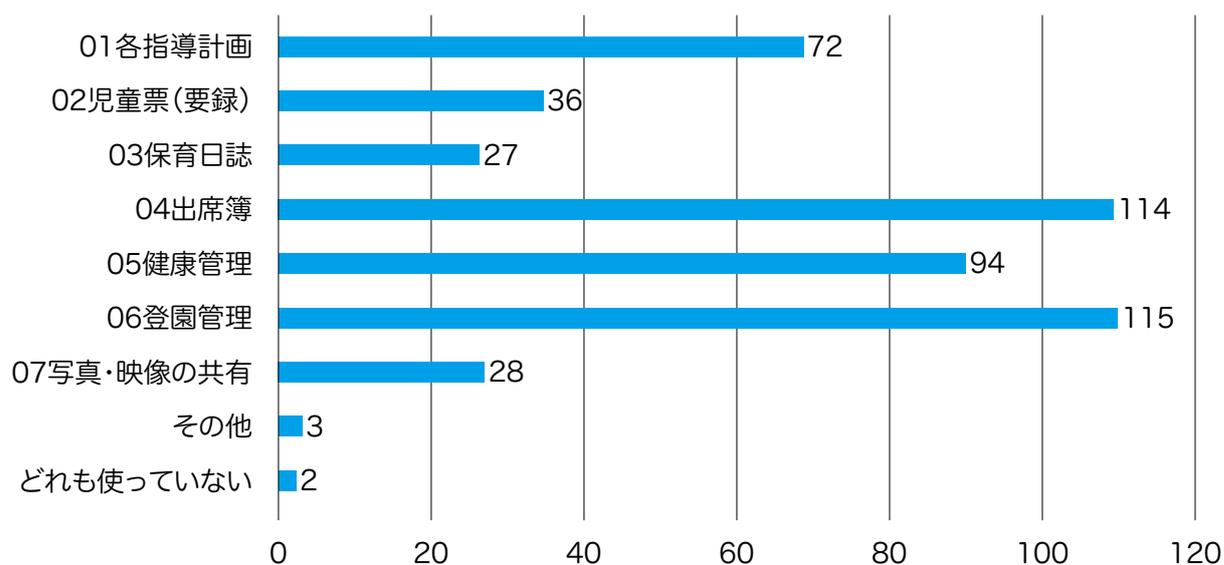
問3 使用されている保育管理システム



・使用されている保育管理システムは、キッズビューが最も多く、続いて延長せんせい、コドモンとなっている。上位3社が全体の70%を締めており、キッズビューについては1社で30%を超え、県内では利用している施設が多いことが分かった。

問4 保育管理システムで活用している機能(n=126)

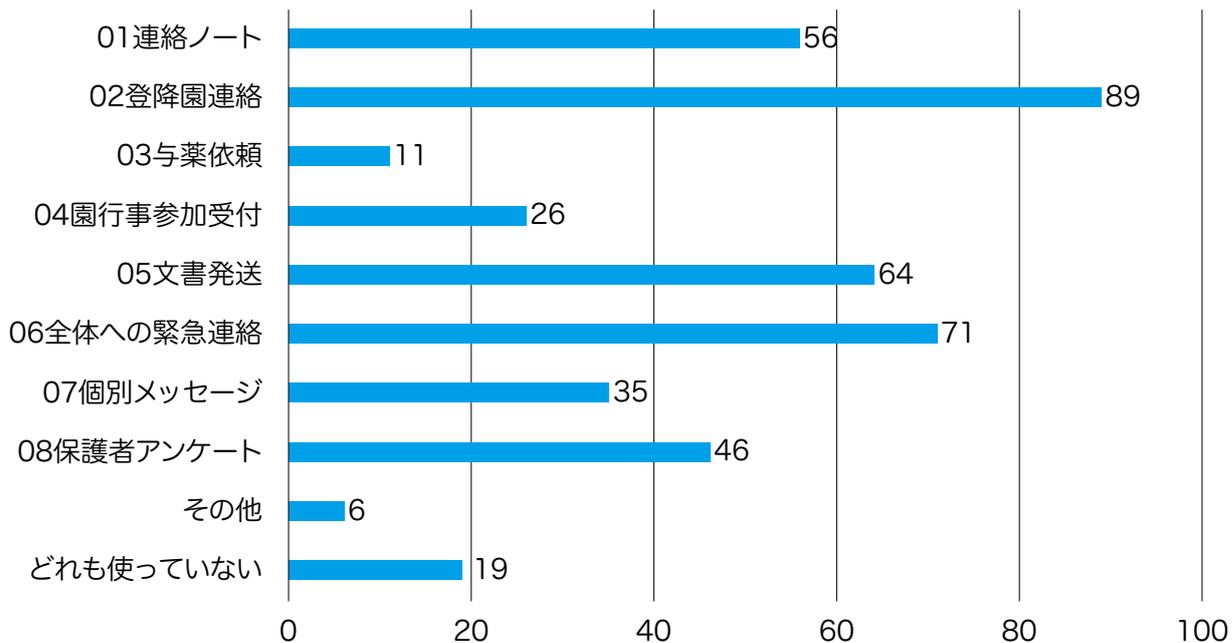
①保育・児童の情報管理に関する機能



※その他の機能(ケガ・事故・ヒヤリハット記録)

・保育管理システムを利用している施設の9割以上が登園管理・出席簿を活用しているのに対し、児童票(要録)・保育日誌・写真や映像の共有は約2割程度の利用にとどまっている。
 ・公立園・私立園の違いや、導入しているシステムのサービス内容によって大きく違いが出たのではないだろうか。

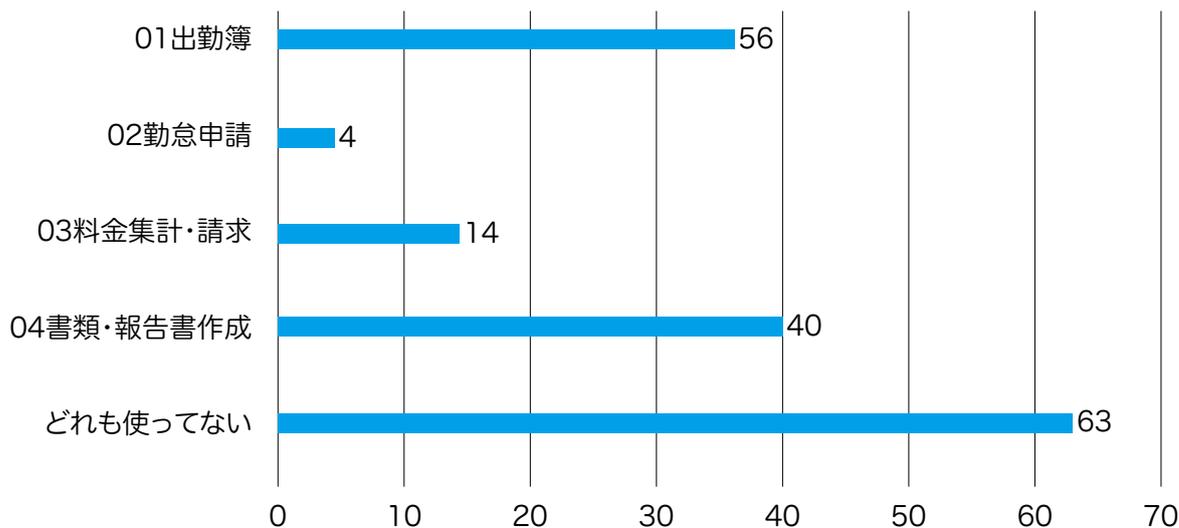
②保護者との連絡・コミュニケーションに関する機能



※その他の機能(献立・ドキュメンテーション・バス運行昇降管理・土曜、祭日保育の申込・検温確認・プール・シャワーの確認・迎え確認(時間・誰が))

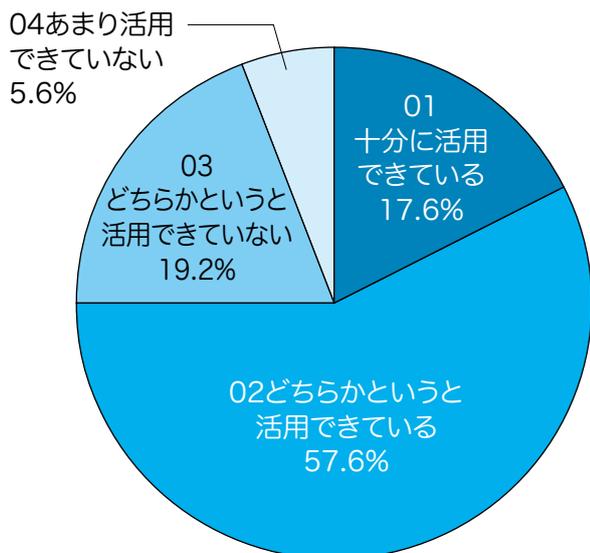
- ・システムからの登降園連絡は、朝夕の忙しい時間帯の保育士の業務負担軽減につながる。
- ・連絡ノートのやりとりや、お便り・お知らせの一斉配信は、保護者が確認しやすいうえ、保育士にとってもペーパーレスによる効率化が期待できる。
- ・安心して使えるサービスが増える事により、保育士の業務負担軽減につながると思われる。

③労務や事務に関する機能

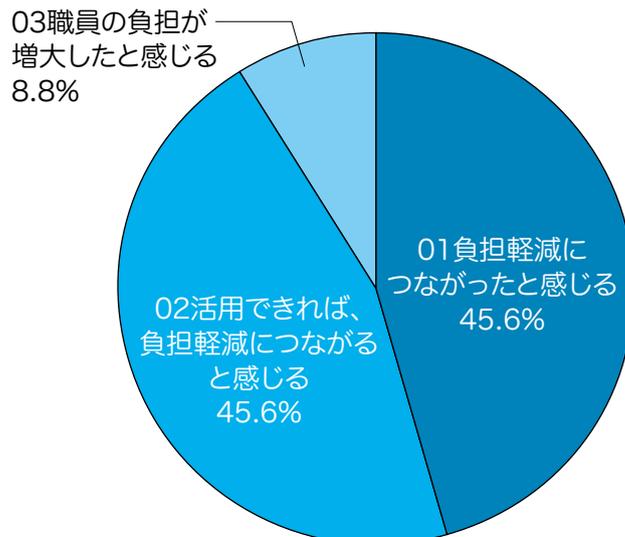


- ・管理職以外の職員が入力・使用できる労務に関する機能を使用している施設は全体の50.0%に留まっている。
- ・公立施設では、役所で使用しているシステムをそのまま使うことができる所もあり、公立・公設民営・私立の違い、又は園の規模により差が出たと推測される。

問5 保育管理システムの機能を活用できていると感じますか。(n=126)



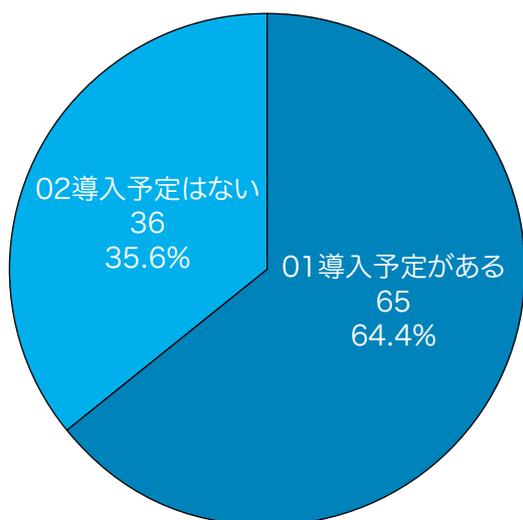
問6 保育管理システムの導入が、職員の負担軽減につながったと感じますか。(n=126)



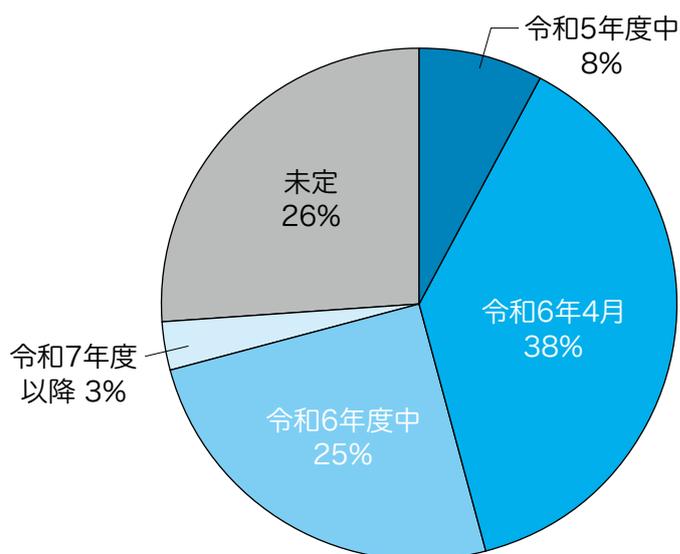
- ・導入に際し事前しっかりと検討されているのか、「十分活用できている」「どちらかという活用できている」と回答した施設は合計で75.2%となり、45.6%の施設では「負担軽減につながったと感じる」との回答があった。
- ・また、問4から、書類作成に関する業務のICT化がまだ進んでいないこともあり、期待を込めて「活用できれば、負担軽減につながると感じる」と回答した施設が45.6%あるという結果となった。

(現在、保育管理システムを導入していない施設のみ回答)

問7 今後の導入予定(n=101)



問8 導入予定時期(n=65)



- ・「保育管理システムを導入していない」と回答した施設のうち、65施設(64.4%)の施設が、今後、導入を予定しているという結果となった。
- ・令和6年度中に保育管理システムを導入する予定のある施設を含めれば、導入する施設数は172施設(75.7%)になり、来年度、県内においてさらにICT化が進んでいくと考えられる。保育の業務負担軽減、保育の質の向上につながればよいと思う。

問9 導入しない理由(自由記述のため、意味が同じ回答は省略しています)

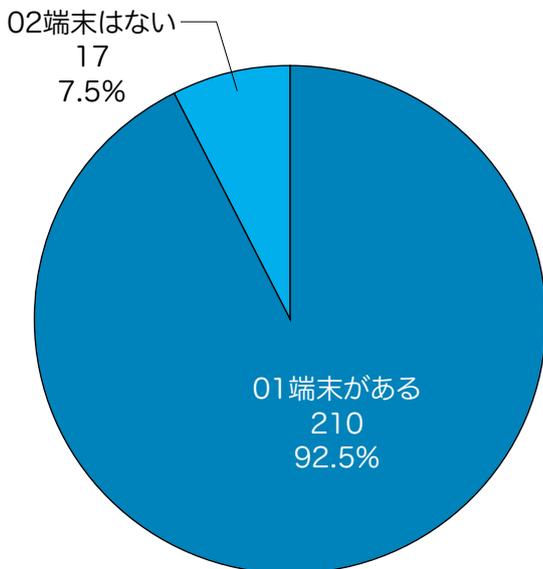
- ・ 予算的な都合(ハード・ソフトの購入費用、ランニングコスト)
- ・ 公立のため、各園では決められない。
- ・ 今年度で閉園するため。
- ・ メリットよりデメリットの方が多く感じる。必要性を感じていない。
- ・ どういった活用が適しているのか、はっきりわからない。
- ・ 保護者とのつながりが希薄になるのを危惧している。電話でやり取りをした方が分かりやすい。
- ・ 紙ベースで不都合を感じない。
- ・ ICT機器の取り扱いに不慣れな職員がいるため。
- ・ 小規模園のため、コストに対してメリットが多くないと考えるため。
- ・ 一度導入したが、使いこなすことができず今は一部しか使っていない。

・ 導入しない理由として、予算面が多いと考えられる。保育業務の軽減や保護者との情報共有などのメリットがあると分かっているにもかかわらず、実際に使ってみないと分からないところもあり、現状のままで導入に至らないとも考えられる。

・ アンケートでは同一市内で統一しているところを除けば、どの地域も約50%という結果となった。導入した後も、園内で検討を重ね、しっかり活用できれば負担軽減につながると思われる。

・ 導入に際してはそれぞれの市町行政や個々の園で、導入範囲や使い勝手をしっかりと検討する必要性があり、全国的にICTの導入が推進される中で、私立・公立、地域格差が広がらなければよいと思う。

3 ICT端末の整備状況等について
問10 ICT端末の有無(n=227)



(端末がある施設のみ回答)

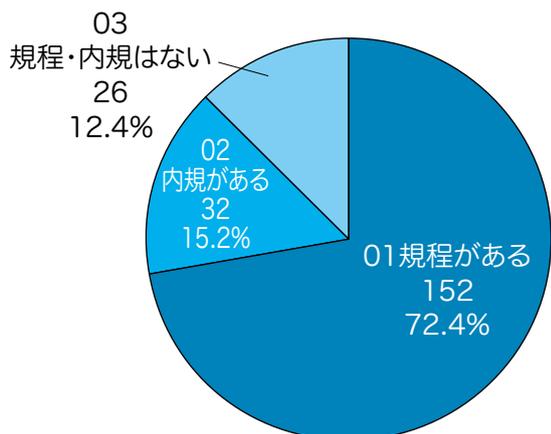
問11・12 使用している端末/1台当たりの使用人数(n=210)

端末	施設数	比率	平均
パソコン	194	92.4%	3.31
タブレット	119	56.7%	3.18
スマートフォン	16	7.6%	7.15

・ パソコン又はタブレットを導入している施設では、平均して3人～4人につき1台整備されており、スマートフォンの場合は、個人のスマホ利用を認めている施設を除くと、7人につき1台整備されている結果となった。

・ ICTの導入有無によって台数が大きく開きがあり、システムを導入しているところではパソコンの使用待ちも生じているが、セキュリティ等も考慮すると何台も接続するには課題があると思われる。

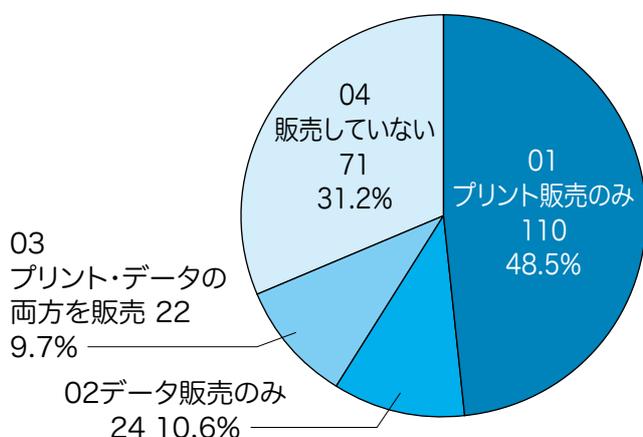
問13 個人情報の取り扱いに関する規程や内規の有無(n=210)



・個人情報の規程については、184施設(87.6%)の施設で整備されている。
 ・県の監査調書にも項目があるので、規程の無い施設は、早めに対応した方が良い。

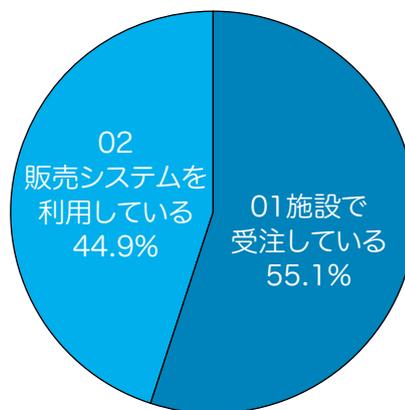
4 保護者への写真販売について

問14 写真販売の有無(n=227)

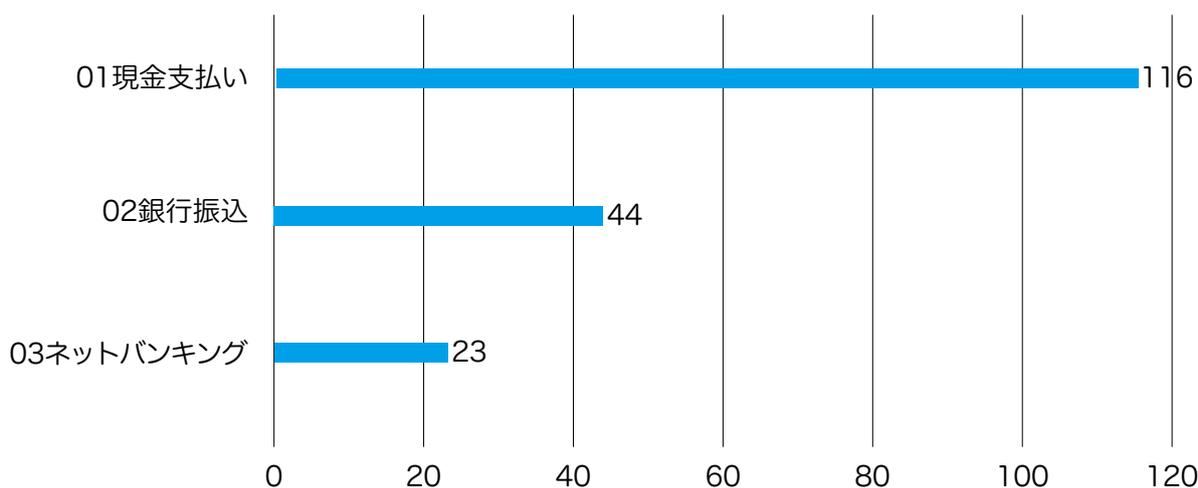


(販売をしている施設のみ回答)

問15 販売方法(n=156)



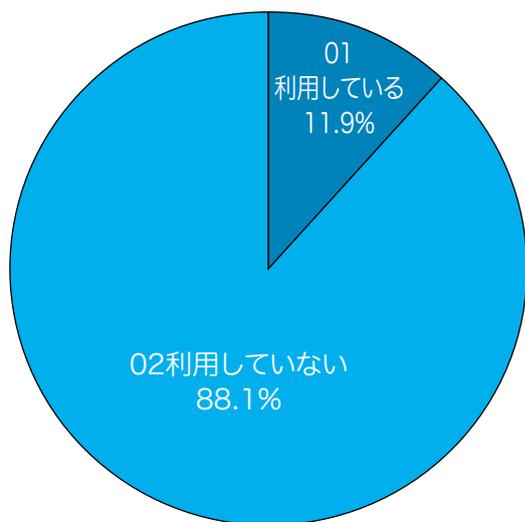
問16 代金の支払い方法(複数回答可)



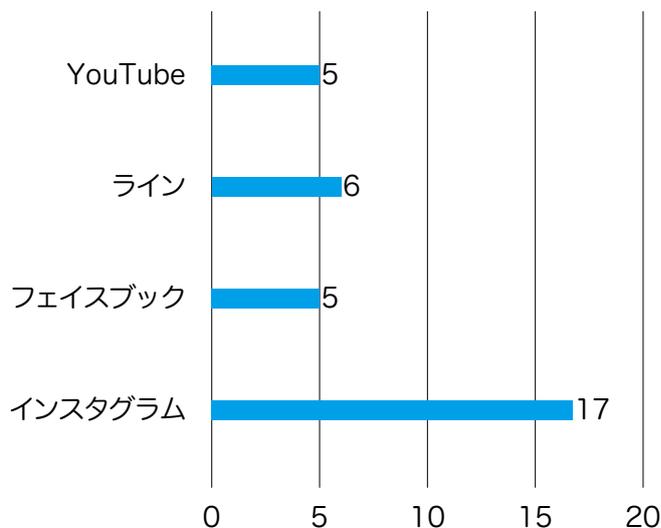
・写真販売において、「プリントのみ」「データ販売のみ」「両方を販売」(69%)、販売していないが(31%)となった。
 ・販売方法においては、「施設で受注している」(55%)となっており、半数以上が保育所の業務の負担となっていることが分かった。
 ・代金の支払い方法については、現金以外に「銀行振込」「ネットバンキング」も利用されており、現金を取り扱わないキャッシュレスの時代になっていることを感じた。

5 SNSの活用について

問17 SNSを活用している施設数



問18 利用されているSNS



- ・SNSを活用していない園が88.1%、活用している園が11.9%あり、利用しているものとして「YouTube」（5園）、「ライン」（6園）、フェイスブック（5園）、「インスタグラム」（17園）となった。
- ・今からの時代、SNSを通してどのようなメリットがあるのか、業務としての負担にならないか、利用している園に個人情報についてどのような規定があるか、調査していきたいところである。SNSを子どもの様子を伝える手段として活用した場合、そのような効果があったか、また活用したことでのマイナス面など、次回での調査でもう少し掘り下げていきたい。

6 支部で実施されている研修について

問19 令和5年度に各支部で実施された研修の実施形式(複数回答可)

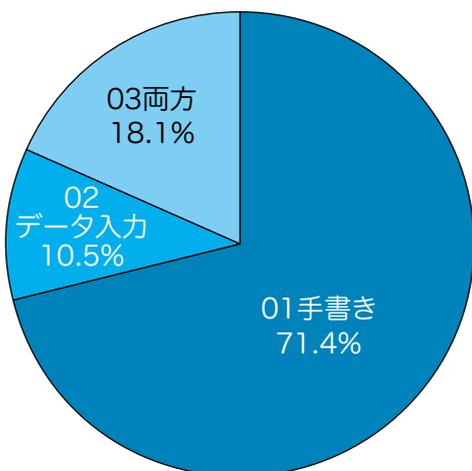
回答	施設	比率
01オンライン研修	148	65.2%
02集合研修	187	82.4%
03資料回覧	72	31.7%
04オンラインと集合のハイブリッド型	34	15.0%
05外部の配信を利用	29	12.8%

- ・支部で実施されている研修は、オンライン研修(65.2%)、集合研修(82.4%)、資料回覧(31.7%)、オンラインと集合のハイブリッド型(15.0%)、外部の配信を利用(12.8%)、となった。
- ・新型コロナウィルス感染症予防のため集合研修が中止や縮小されていたが、今年度5月より5類に移行となり集合研修が行われる率が高くなったと考えられる。しかし、オンライン研修もその場に講師を招いて話していただいたり、離れている職員との研修も行える利点を活かして半数の割合で今年度も行っており、研修の仕方も変化してきていることを感じた。

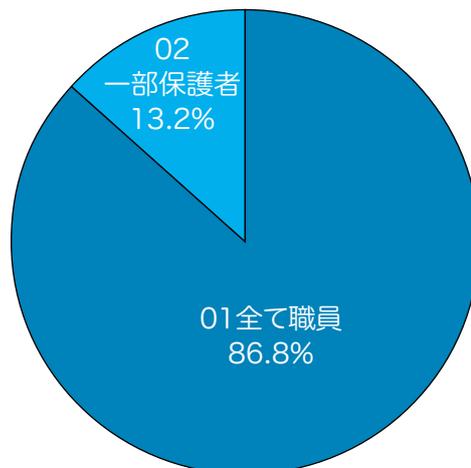
7 児童票について

問20 児童票の作成状況について教えてください(n=227)

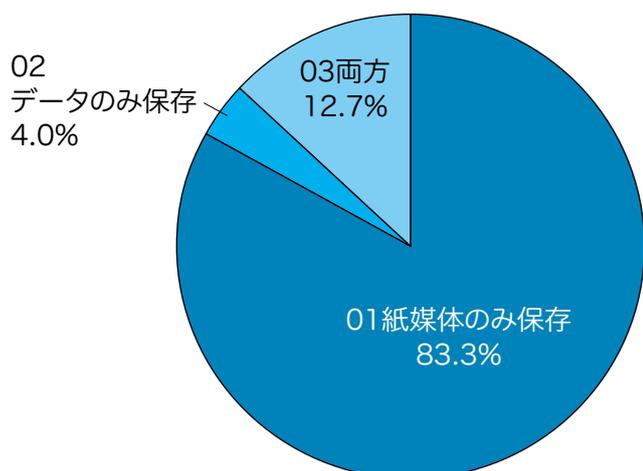
①作成方法



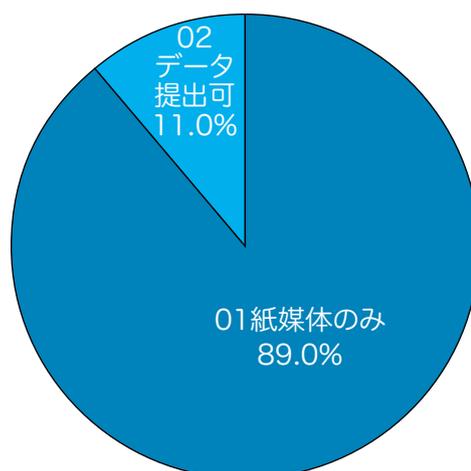
②作成者



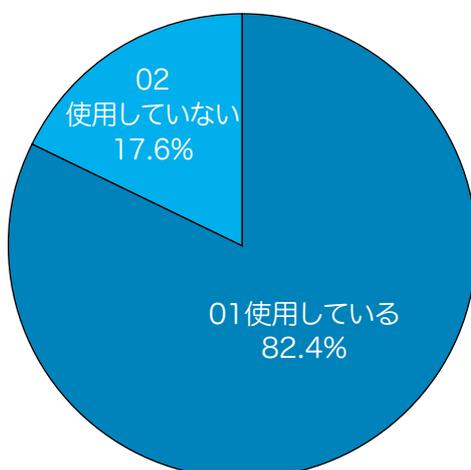
③保存方法



④実地指導の際に提出する形式

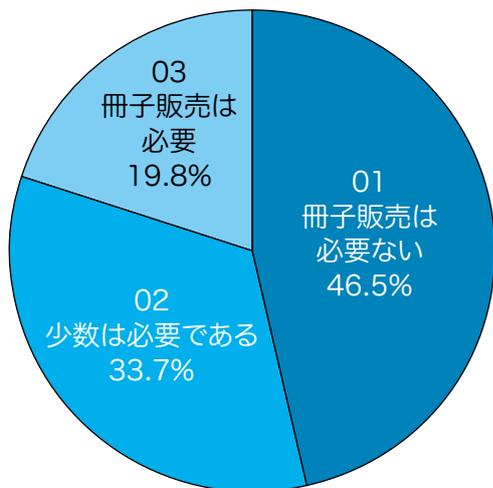


問21 愛媛県保育協作成の児童票(冊子)の使用率(n=227)



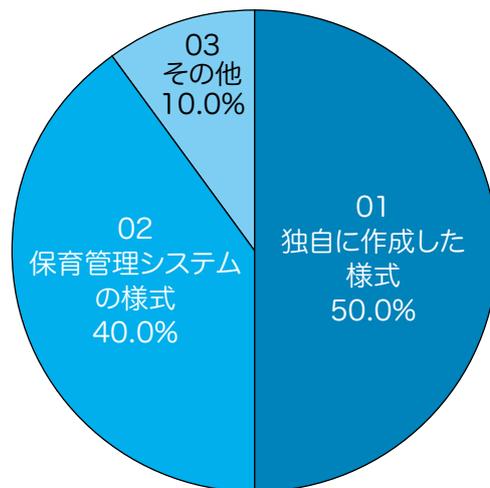
(県保協版児童票を使用している施設のみ回答)

問22 児童票様式がデータで提供されるようになった場合、冊子での必要可否。(n=187)



(県保協版児童票を使用していない施設のみ回答)

問23 使用している児童票(要録)様式。(n=40)



※児童票に関する調査結果を受けて、児童票書式をデータで配布することとなりました！

会員／非会員問わずダウンロードしていただくことができ、データ入力や書式の編集も各自で出来る形式での配布となっておりますので、ぜひご活用ください。(配布場所 えひめの保育ホームページ内)

【URL : https://www.ehime-hoiku.jp/?page_id=6867】



IV 総括

今回の実態調査の実施にあたって、日々の保育業務がお忙しい中、回答にご協力をいただき誠にありがとうございました。

令和元年度に実施した調査結果と比べて、保護者との連携や労務管理の分野でICTの活用が広がっていることが分かります。また、ICT化が「職員の負担軽減につながる」と肯定的な意見が多いことから、コミュニケーションのツールとして利用することで、保育の質の向上につながっている実感があるのだと思います。

職員の業務軽減と労働環境の改善が、人材の定着や確保につながることから、システムの導入(業務軽減)を検討されている施設におかれましては、本調査が参考になれば幸いです。

パソコンに不慣れな職員や、システムに慣れるまでは少し時間がかかりますが、長期的にみると業務の効率につながり、保護者との情報共有等がスムーズに行え、現場に良い影響を与えているようです。国では、ICT化を推進する目的から、令和5年度補正予算においても、ICT化推進等補助金の補助予算率を嵩上げするなどの、取り組みが図られています。保育業務の効率化により、子どもと向き合う時間が増え、働き続けやすい職場を目指してがんばっていきましょう。

V 参考

- 保育所等におけるはじめてのICT活用ハンドブック
【発行元】三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)
【調査委託】厚生労働省
【URL】

https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2023/04/koukai_230413_12.pdf



- 保育現場でのDXの推進について
【発行元】こども家庭庁

※第5回子ども・子育て支援等分科会 資料6
(2024年2月19日)

【URL】
https://www.cfa.go.jp/councils/shingikai/kodomo_kosodate/YQvq3ixl

※上記ページの資料6



令和6年度 研修等日程のお知らせ

※内容や実施期日は変更する場合があります。最新の情報はホームページ「えひめの保育」をご確認ください。

【URL:<https://www.ehime-hoiku.jp/>】

【愛媛県保育協議会事業】 マークは本会個人会員のみが受講できる研修です。

No.	名称	内容等	
1	保育関係者交流セミナー (保育のおしごとフェア)	期日	6月16日(日)
		会場	松山市総合コミュニティセンター
		対象	・保育士等の職員採用予定がある施設 ・現役で教育・保育施設に従事する職員 ・保育を学ぶ学生、教育・保育施設への就職・転職を希望する方、潜在保育士等 ・お子様連れのご家族
2	教育・保育施設初級職員研修会	期日	6月19日(水)
		会場	愛媛県県民文化会館 2階「真珠の間」
		対象	職務従事経験3年未満の職員(職種不問)
3	副主任・専門リーダー研修会	期日	7月9日(火)
		会場	愛媛県総合社会福祉会館 2階「多目的ホール」
		対象	副主任・専門リーダー
4	主任保育士・主幹保育教諭研修	期日	8月1日(木)
		会場	愛媛県総合社会福祉会館 2階「多目的ホール」
		対象	主任保育士・主幹保育教諭
5	第69回 愛媛県保育事業研修大会	期日	9月24日(火)
		会場	愛媛県県民文化会館 1階「サブホール」
		対象	全員
6	事例発表会	期日	11月27日(水)
		会場	愛媛県総合社会福祉会館 2階「多目的ホール」
		対象	全員
7	教育・保育施設長研修会	期日	12月6日(金)
		会場	愛媛県県民文化会館 2階「真珠の間」
		対象	教育・保育施設の施設長・経営者 等
8	中堅保育士研修会	期日	1月中で調整
		会場	調整中
		対象	職務従事期間が5年以上の保育士

【保育士等キャリアアップ研修(eラーニング)】

研修テーマ	配信期間	募集期間
①乳児保育	7月1日(月)～22日(月)	5月15日(水)～6月5日(水)
②幼児教育	8月1日(木)～22日(木)	
③障がい児保育	9月2日(月)～24日(火)	6月27日(木)～7月18日(木)
④食育・アレルギー対応	10月1日(火)～22日(火)	7月30日(火)～8月20日(火)
⑤保健衛生・安全対策	11月1日(金)～22日(金)	8月29日(木)～9月19日(木)
⑥保護者支援・子育て支援	12月2日(月)～23日(月)	9月26日(木)～10月17日(木)
⑦マネジメント研修	1月9日(木)～30日(木)	10月31日(木)～11月21日(木)
⑧保育実践研修	2月3日(月)～25日(火)	11月28日(木)～12月19日(木)

【保育士等キャリアアップ研修(eラーニング)】

No.	研修会名	開催日	開催地
1	教育・保育施設長ステージアップ研修 ①基礎編 ②専門・発展編(前期) ③専門・発展編(後期)	①7月23日(火) ②11月12日(火)～13日(水) ③2月6日(木)または7日(金)	全社協(東京都)
2	公立保育所等トップセミナー	8月28日(水)	オンライン
2	第67回全国保育研究大会 (奈良大会)	10月17日(木)～18日(金)	奈良県奈良市
4	認定こども園研修会	1月16日(木)～17日(金)	全社協(東京都)

※「1教育・保育施設長ステージアップ研修」を全課程修了された方には、参加費の全額助成があります。

【全国保育士会主催】

No.	研修会名	開催日	開催地
1	第36期主任保育士・主幹保育教諭 特別講座 ①前期集中講義 ②WEB講義 ③後期集中講義	①6月28日(金)～30日(日) ②7月27日(土) ③9月27日(金)～29日(日)	①全社協(東京都) ②ライブ配信 ③全社協(東京都)
2	食育推進研修会 ①対面形式 ②アーカイブ配信	①7月25日(木)～26日(金) ②8月19日(月)～9月2日(月)	ホテルグリーン タワー幕張 (千葉県千葉市)
3	「保育スーパーバイザー」養成研修会	8月29日(木)～30日(金)	全社協(東京都)
4	第57回全国保育士会研究大会 (高知大会)	11月21日(木)～22日(金)	高知県立県民文化 ホール (高知県高知市)
5	第51回全国保育士研修会	調整中	調整中

※「1 主任保育士・主幹保育教諭特別講座」及び「4 第57回全国保育士会研究大会(高知大会)」には、参加費の全額助成があります。

【四国ブロック開催】

No.	研修会名	開催日	開催地
1	四国ブロック保育研究大会 (香川大会)	7月11日(木)	高松国際ホテル (香川県高松市)
2	四国ブロック 保育組織次世代リーダー研修会/ 保育士会リーダーセミナー	11月6日(水)	グランリヴィオホテル 徳島(徳島県徳島市)

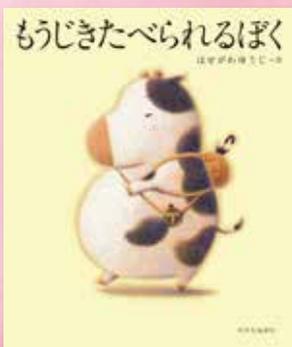
※四国ブロック研修は、本会会員のみ受講が可能です。



おすすめのほん



動物や食べ物(?)が主人公の絵本を紹介します。
切なくなったり ほっこりしたり くすっと笑ったり
手元に置いておきたくなるような、大人の心にも響く絵本です。



もうじきたべられるぼく

【作】はせがわゆうじ 【出版社】中央公論社
「食べられる」運命を受け入れた「僕」。
「母」を想う気持ち。 その「母」の気持ち…。
切なくて、泣かずにはいられません。



りんごがひとつ

【作】ふくだすぐる 【出版社】岩崎書店
たった一つのりんごをめぐる、お腹を空かせた動物たちが、逃げるおさるさんを追いかけます。とうとう崖の上まで追いつめて…。みんな優しい気持ちになります。



なまえのないねこ

【作】竹下文子
【絵】町田尚子
【出版社】小峰書店

「レオ」「げんた」「チビ」「じゅげむ」町の猫にはみんな名前がついているのに、この猫には名前がありません。
「名前のない猫」が本当に欲しかったものは…？
たくさんの猫が登場する、美しく楽しい絵も素敵です。



さくらもちのさくらこさん

【作】岡田よしたか 【出版社】ブロンズ新社
食べ物界初のヒロインさくらこさん。
ああそれなのにさくらこさんときたら素直じゃないったらありやしない。
でもちょっとわかるかも、その気持ち。

令和5年度保育問題対応協力金のご報告

227施設の皆様から、合計 **747,040円**の
協力金をお預かりしました。

本協力金は全国保育協議会へ送金し、
保育制度の充実強化を目指すために活用します。
ご協力ありがとうございました。

令和6年能登半島地震への支援のご報告

令和6年1月に発生した能登半島地震によって被害を受けた地域の、保育所等及び保育活動等を支援するための募金として、本会から500,000円を、保育三団体被災地支援募金を通じてお送りしました。

被害を受けた地域の皆さまにおかれましては、心よりお見舞いを申し上げます。